

1. 質の高い大学教育推進プログラム（教育G P）

(1) やる気を育む実践的なキャリア教育の展開

－社会的ニーズと教育的ニーズの両者を満足させるキャリア教育の推進－

総合経営学部総合経営学科 教授 林昌孝

(様式1の一部)

申請区分	教育方法の工夫改善を主とする取組		取組期間	平成20年度～22年度		
取組名称 (全角20 字以内)	やる気を育む実践的なキャリア教育の展開					
	課題7746101－社会的ニーズと教育的ニーズの両者を満足させるキャリア教育の推進－					
取組学部等	総合経営学部					
申請の分類	<input type="radio"/> 教養教育	専門基礎	<input type="radio"/> キャリア	外国語	体験活動	
	職業教育	ICT	成績評価	<input type="radio"/> 初年次教育	補習教育	
	高大連携	FD・SD	地域活性化	知的財産	環境教育	
	その他 ()					
キーワード (5つ以内)	主体性、キャリア意識、自己管理サイクル、入学前教育、柔軟な学生指導					

取組にあたって

本学のキャリア教育は大学設立以前の短期大学時代からの実績とノウハウをもとにして、地域企業との信頼関係の上に構成されていることは言うまでもない。学生を地域に送り出すにあたっては、本学の教育活動の真価を問われるものと自覚してキャリア教育に取り組んでいる。したがって、これまでの改善と試行錯誤をもとに構成されているものである。それと同時に今後のブラシアップと新しい発想で常に改善されるべき内容である。

今回の申請の内容は、学生の主体性を引き出しながら、大学の諸活動に取り組むことを通じて、キャリア意識の形成と定着を促進しようとするものである。

本学に入学してくる学生は、卒業後は地元企業への就職を望んでいる学生が多い。また、中小企業の比率が高い長野県では、地域企業の若年就労者の確保と定着率の向上は重要な課題となっている。したがって「社会人基礎力」と「実践的活動能力」を兼ね備えた地元出身者の雇用意欲が強く、本学に寄せる期待は大きい。一方、入学目的や大学の諸活動へ参加意識が漠然、曖昧な学生が近年増えている。

そこで本取組は、本学への入学が決まった高校生を対象にした入学前教育の時点から企業への就職が内定して卒業するまでを対象としている。「入学前教育」や「自己管理サイクル」をとおして、「ホスピタリティ精神」「コミュニケーション能力」「主体性」などの基礎的能力の養成をおこない、地域社会で活躍できる実践力が育成される仕組みを解説している。

本取組は、学生の主体性を引き出しながら、自ら目標を定めて大学の諸活動に取り組むことを通じて、キャリア意識の形成と定着を促進しようとする取組である。社会的ニーズと教育的ニーズの両者を満足させながら展開する実践的なキャリア教育である。

【社会的ニーズ】

本学に入学してくる学生は、9割以上が地元長野県の出身者で、卒業後は地元企業への就職を望んでいる学生が多い。また、全国的にも中小企業の比率が高い長野県では、地域企業の若年就労者の確保と定着率の向上は深刻な問題となっている。本学では開学以来、地域社会との連携に力を入れてきた成果として、地域の企業や団体等との信頼関係はより深まりつつある。地元企業側においては、「社会人基礎力」と「実践的活動能力」を兼ね備えた地元出身者の雇用意欲が強く、本学に寄せる期待は大きい。

【教育的ニーズと自ら学ぶしくみ】

一方、入学目的や大学の諸活動へ参加意識が漠然、曖昧な学生が近年増えている。本取組は、本学への入学が決まった高校生を対象にした入学前から企業への就職が内定して卒業するまでを対象として支援する。「入学前教育」では、先輩学生の指導によるグループワークや専門のキャリアカウンセラーとの話し合いを通して大学生としての自覚を持つよう促す。さらに大学生生活の目標を自ら設定することによって自己管理サイクルに誘導し、学生生活がスタートする。勉学やサークル活動など大学の諸活動への参加の後、再びアドバイスと指導を受けながら目標を見直し、修正をしながら次のサイクルに進む。この試みは卒業まで続けられる。

この自己管理サイクルを通して、「自ら踏み出す力」「主体性」を涵養して育成する。この「自ら学ぶしくみ」を組みこむことにより、ホスピタリティ精神やコミュニケーション能力などの社会人基礎力が養成され、地域社会で活躍できる実践的活動能力の育成が可能となる。

【大学の強みを活かして】

本取組の目標達成のためには、地方の小規模大学ならではの機動性と柔軟性を「強み」として十分発揮し、実効性の高い取組にする必要がある。即ち、①学生の理解や達成度に応じて「柔軟な学生指導」ができる「正課科目」と「正課外科目」との連携と補完、②個々の学生のキャリア意識の成熟度に応じてセミナーの受講時期や講座の選択ができる「就職準備セミナー」「オプション講座」の設置、③卒業後も視野に入れて生涯学習への導入を意識した「社会人実践講座科目」の設置などである。

本取組を効果的に推進するにあたり、全学的な組織としてキャリアセンターを設置した。キャリアセンターの教職員を中心とした取組である。

(様式2)

1 教育の質の向上への大学等の対応について【原則3ページ以内】

(1) 人材養成目的の明確化 [申請書作成・記入要領 P.4参照]

松本大学は開学以来7年目に入っており、二つ目の学部も増設され、学生募集も順調に推移している。設立に際し、長野県、松本市、学校法人松商学園が各々1/3ずつを出資し、広域連合(松本市を含む周辺19市町村)からの支援もいただいたという経緯がある。そのため教職員は、私立でありながら、「地域立大学」という認識を強く持っている。

本学の学則には、その目的として「本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、本学園創立の精神たる自主独立に基づく人間教育を行うことにより、地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材を育成し、もって平和で豊かな社会の創造に貢献することを目的とする」と規定されている。

しかしより分かり易くするため「“地域社会の幸せづくり”ができる人づくりをすること」だと学生に説明している。

ミッションの実現には、次の3つの能力を身に付けることが重要である。①大学で学んだ専門的知識や技術を生かし、地域社会の課題の解決に向けて周囲と協働しながら努力できる能力。②ホスピタリティ精神を持ってコミュニケーションを重ね、自らの主張を分かり易くプレゼンテーションできる能力。③高い専門性と幅広い教養を兼ね備え、地球規模でグローバルに考え、地域社会での実現に向けローカルに活動するという視点を持つこと。

その結果として、「活力のある地域社会の創造を実践する人材」を育てたい。活力ある地域社会の創造には、地域社会への積極的な参加を志す若者を育てること、その若者を受入れる地域との信頼関係を作り上げていくことが重要であり、この二つは本学のキャリア教育の要点ともなっている。

3つの方針：入学者の受入れ・教育課程編成・学位授与

これまでに述べてきた松本大学のミッションに対する自己規定、それを実現するために学生に示した大学生活で身につけるべき能力・態度などから、卒業認定やカリキュラム編成、そして入学受入れのポリシーという3つの方針は自ずと決まってくる(資料1)。

(a) 卒業認定については、大学が必要だと宣言している能力や社会性がどれだけ身についたかで判断される。また、(b) カリキュラム編成は専門的な教育の他に、幅広い視野をもたらす教養教育、特にコミュニケーション、プレゼンテーション能力、ホスピタリティ精神を養うのに必要な課程を準備することになる。(c) 入学者の受け入れについては、単に偏差値の高低を基準にするのではなく、「自らが獲得した能力を広く住民のために生かしていこう」「地域社会の将来を自らが背負っていこう」という大志を持った学生を受け入れたいと思っている。そのために入学試験においてもAO、推薦(一般、指定校)、一般、センターといった多様な形態を採用している。また、入試合格者には入学前にキャリア・カウンセリング(後述)を全員に一人1時間程度をかけ、専門カウンセラーとの間で話し合いを持つようにしている。そこでは、入学予定者からは夢や希望が語られるだけでなく、その実現のための自覚や努力の必要性が認識されており、入学後の学びに良い影響を与えている。本学は彼らの夢の実現に出来る限りの支援をすることになる。

(2) 成績評価基準等の明示等 [申請書作成・記入要領 P.4参照]

① 授業の方法及び内容並びに一年間の授業計画の明示

シラバスは、学生がその授業科目を履修するかどうか、履修する場合にはどのような条件が付いているのか、またその科目が資格取得に対して必須科目となっているのかどうかなど、学生の便宜を図る目的で情報が提供されている。そのために、講義科目名、担当者名、配当年次、単位数、必修選択の別、資格との関係などの形式要件が記されている。また、講義のねらい、講義の概要、講義の進め方、履修上の注意、成績評価の仕方、テキスト、参考文献、講義計画など学生が履修する

上で参考にする情報を提示している。

②学生の学習時間確保について

学習時間確保の方法についてはいくつかの異なった視点からの対応を施している。

(a) 一つは、C A P制度の導入である。一時に多くの科目を並行して履修すると、一つ一つの科目にかける時間数がどうしても不足することになるためである。但し夏期や春期の集中講義については、C A P制度の意義からしても除外するのが妥当だとの判断をしている。また、個人の力量の差なども考慮して、教職専門科目など特定の学生に向けた科目群も除外することになっている。

(b) もう一つの対応は、特待生制度や学内奨学金制度の充実、あるいはS A (Student Assistant)という、学びと資金収入を兼ねた制度を導入することによって、生活費や授業料などのために学習時間を削ってアルバイトに精を出さざるを得ない状況を緩和しようとする取組である。

③学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準の明示と、基準に沿った実施について

(a) 卒業要件として、全ての必修授業の単位取得 (総合経営学科23単位:観光ホスピタリティ学科37単位)、基礎科目及び専門科目から所定の単位数以上を取得、総単位数124単位以上を課しており、学期にも明記しオリエンテーションなどでも十分に説明している。また、いろいろな資格取得のために課せられた必修科目があり、それらはシラバスにも明記し、各資格の養成課程であることを認定された大学として、卒業時点で資格取得証明書を発行している。

(b) 成績評価基準はシラバスに明記されている。実習系などはレポートを課す場合が多いが、それ以外の科目については、出席点やレポート点などに配慮はしても、基本的には試験を課して単位認定を行うことにしており、安易な単位認定は避けるようにしている。

(c) またG P A制度を採用しており、シラバスをよく読み、計画を立てて履修するように、S (4)・A (3)・B (2)・C (1)・D (0)・R (-1, 放棄)とし、放棄することに強いペナルティを課している。現在はG P Aの値によって退学勧告などはしていないが、ゼミナールの選択で定員を超える場合や奨学生としての継続の条件や卒業時の成績優秀者を表彰する場合などに利用している。

(3) ファカルティ・ディベロップメントの実施 [申請書作成・記入要領P.4参照]

①FD委員会によるアンケートと意見交換会

FDという場合、私たちは教職員側の努力を促す方向ばかりではなく、学生側にいかに学ぶ姿勢を持たせるかということの重要性を強く認識している。それは、「良い授業は教員の消熟と、学生の意欲がぶつかり合うところでしか実現しない」という考えに基づいている。その実現のために、地域社会との連携を取入れたアウトキャンパス・スタディやサポーターによる実践的教育体験を通して興味や気づきを引出し、主体的に学びに向かわせる、いわゆるアクティブ・ラーニングを重視し発展させてきている。

(a) 全学組織的に展開されるFD活動は、各期の講義終了時期にFD委員会が作成したフォーマットで「学生による授業評価アンケート」「教員による授業の自己評価アンケート」を行う。その結果に対して担当教員は所見を述べ、改善点、創意工夫等をコメントし、冊子にまとめて公表している。(b) また、夏季に大学の研修施設を利用して合宿スタイルで教育目標の確認と教員が担当する科目の問題点、改善の方向、工夫点等の情報交換と意識の共通基盤形成のための意見交換会を開いている。

②本取組に関係するFD活動

・キャリアセンターによるセミナー等FD活動

キャリアセンターでは、(a) 本学の学生のキャリア形成意識の現状把握を目的に、学年別年度別にプレメントテストを行っている。その結果について、解説と対策のための教職員向けセミナーを年1回開催している。(b) 本学教職員が連携して学生の就職支援にあたるようキャリア教

育に関連した活動内容の周知のためのセミナーを学部ごとに年度初めに開催している。また、(c) 外部の専門キャリアカウンセラーに対して、本学のキャリアセンターの活動方針と活動計画、キャリアカウンセリングの位置付け等の研修会を年2回開催している。

・就職委員会・教務委員会のFD活動

就職委員会は、キャリアセンターと一体となって活動をおこなっているが(a) 月毎に会議を開き、キャリア教育関係のプログラムの進捗状況と成果をチェックしている。これにより、プログラムの内容にフィードバックをかけながら進めている。

また、(b) 初年次教育の要として設置されている「ゼミナールI」は、キャリア形成の観点から教務委員会と就職委員会が原案と要望を作成し、担当教員と協議をしながらシラバスを作成している。(c) その他のキャリア関連科目についても(b)と同様のプロセスを経ながら、取組の内容と方法の改善活動を展開している。

(4) 自己点検・評価等の実施体制・展開と評価結果の反映 [申請書作成・記入要領 P.4参照]

自己点検・評価の基礎データとして、(a) 教員各個人には「研究活動、教育活動、社会的活動に関する情報の整理と提出」や、「獲得した外部資金や内部的な学術研究助成費について、その研究成果報告書の提出」を義務付けている。これらは「アニュアル・レポート」として、「地域総合研究」誌にまとめ公開されている。(b) また、教員のみならず職員も構成員として入っている、各委員会やセンター毎に活動経過報告とその評価(年間活動計画に照らして)についてまとめるようになっている。(c) これらに総合的な評価を加え、法人部門などの活動も付加すれば、自己点検・評価報告書の完成へとつながる。

本取組の中心となる「キャリアセンター」では、自己点検・評価報告書の他に、1年間のキャリアセンターの活動報告を「キャリア・エデュケーション」としてまとめ、学内外の関係部門に公表している(資料2)。この冊子は本学のキャリア形成教育の確立のためのPDCAサイクルの一部として位置付け、評価・改善活動に活用している。

(様式3)

2 取組について【5ページ以内】

(1) 取組の趣旨・目的 [申請書作成・記入要領 P.4参照]

本取組は、社会的ニーズと教育的ニーズの両者を満足させながら展開するキャリア教育プログラムである。学生の主体性を引出しながら大学の諸活動に参加させることにより、学生のキャリア意識を形成していこうとする取組である。

①取組の背景、社会的ニーズについて

本学に入学する学生の9割以上は地元の長野県出身者であり、その内9割以上が県内での就職を希望し、実際県内に事業所を置く企業に就職している(資料3:入学者の出身地と就職先・資料4:勤務地希望調査)。本学への入学理由調査では、学部学科によって「学ぶ内容」「目指す資格」が違いため差異はあるものの、「自宅から通学したい」「就職に有利」「キャンパスの立地条件」といった共通した地元志向が伺える(資料5:本学への入学希望調査)。

長野県内の企業を対象にした「採用の際に重視する資質や能力のアンケート調査」では、専門的能力への要望はあるものの「責任感」「行動力」「積極性」といった「社会人基礎力」を求める要請が強い(資料6:企業アンケート調査)。この結果は、全国的な傾向とほぼ同様である。さらに、これまで本学のキャリアセンターに寄せられている地元企業からの要望として、職場への定着率の向上を図る観点から、「落ち着いて地元で活躍できる人材」「地域に精通している人材」「地域活動への参加を嫌がらない」「自宅から通勤できる」など、地元出身者の採用を希望する声が多い。

一方、学生の実態としては学力格差・学習習慣の違い、大学選択の漠然さ、基礎学力の低下等の

問題点がある。したがって、「地域企業」が抱える社会的ニーズと「学生」の実態を踏まえた教育的ニーズの両者を満足させるキャリア教育を展開する必要がある。

②取組の学生教育の目的と成果に関する具体的な目標について

本取組の目的は、主体性の涵養とキャリア意識の形成であり、これまでの「教え込む教育」から「自ら学ぶ教育」への変革である。

学生をグループワークやカウンセリングを通じて「自ら一步前に進もう」とする「兆し」が現れるしくみを取り入れて、自己管理サイクル（後述）の中に誘導していく。

また、「就職先を斡旋する」「就職活動のノウハウを伝授する」という従来の就職支援の活動範囲を拡大している。つまり、「キャリア意識の涵養のための正課科目と連携する

正課外科目の設置」「学生のキャリア意識の図

1：地域社会の幸せづくりのできる人

醸成時期に応じた就職準備の支援」「卒業後までも視野に入れたキャリア意識の定着支援」などに及んでいる。

この取組によって「自ら参加する力」「自ら考える力」や「グループで協調する力」を充実させ、キャリア意識を育成することにより、地域社会への積極的な参加を志す人材を養成することができる。

ここで導入を試みているキャリア関連の正課外科目は、キャリアセンターが中心になっておこなっている。したがって、FD委員会が主宰する改善活動とは別に成果に関する具体的な目標をおいている。

平成20年度の具体的目標として、就職希望率（就職希望者／全学生数）95%以上、内定率（内定者数／就職希望者）95%以上として設定している。

③学部等の人材養成目的との関係について

本学総合経営学部では、「地域社会の幸せづくりができる人づくり」のために「徹底した地元志向」を掲げている。地域社会との連携のもとに行われるアウトキャンパス・スタディやサポーターによる実践的教育活動は、学生の主体的な参加意識とキャリア意識があつてこそ実質化する。本取組は本学部の人材養成目的を支える柱の一つである。

(2) 取組の具体的な内容・実施体制等 [申請書作成・記入要領 P.5参照]

①取組の目的を達成するための教育課程・教育方法等について

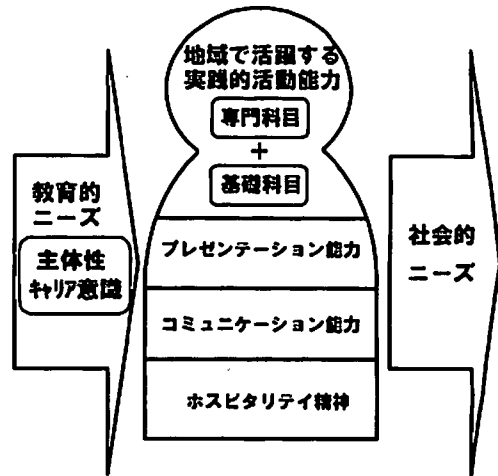
主体性を育てるしくみ

入学前教育は、「自ら一步前に踏み出そうとする力」「主体性」を涵養するための雰囲気をつくる場であり、自己管理サイクルへの踏み出し過程である。

第1日目は、入学予定者を集めて、「高校生と大学生の違い」というテーマでおこなわれる。

上級生がパネラーとなって、パネルディスカッションをおこない大学での勉学、サークル、アルバイトなど具体的な体験談を話す。

高校生は、これまでの生活の振り返りを行ったのちに、グループワークをおこない大学生活のイメ



ージづくりをおこなう。この際、上級生は研修を受けて「ファシリテーター」として参加し、「踏み出すこと」「自ら学ぶこと」をメッセージとして送りながらグループワークを進める。上級生自身は「自ら振り返り」「教えながら学ぶ」をことにより主体性の再確認を行う。一方、高校生は、「振り返りと気づき」を促されながら「自分で考える」「人に考えを伝える」「グループで意識を共有する」などの経験をする。

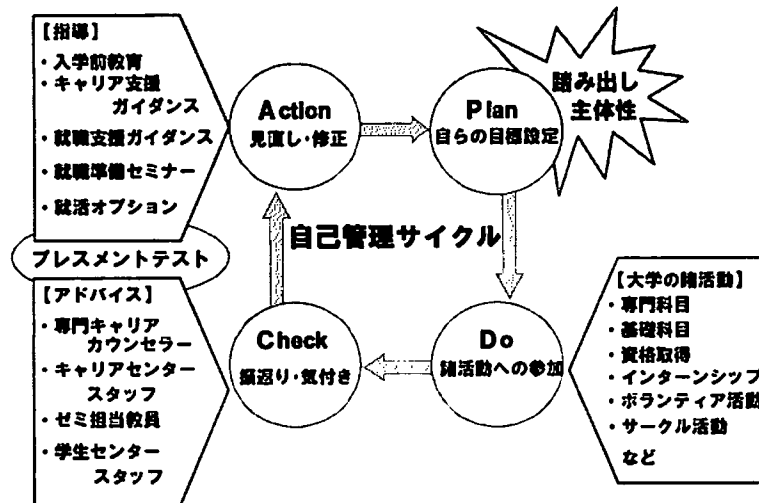


図2：主体性を育てる自己管理サイクル

第2日目は、全学生に対してキャリア・カウンセリングを実施して、専門家との間で一人1時間程度の話し合いを持つ。そこで、大学における学びの自覚などのアドバイスを受ける。キャリアカウンセラーは、「学生が心を開いて話やすくする事」を考慮して、敢えて学外の専門家に依頼している。その後、大学生活の目標を自ら設定し自己管理サイクルがスタートする。第3日目は、カリキュラム等のプレオリエンテーションがあり入学前教育は終了する。

この自己管理サイクルは卒業まで毎年同様のパターンで行われる。2年次では、1年間の振り返りとプレメントテスト結果を参考に、将来の進路を意識させながら、専門教育へのスムーズな移行ができるよう大学生活の目標の確認や見直しを行う。3年次では、2年間の振り返りとプレメントテスト結果を参考に、進学や就職を念頭において専門分野や就職活動スキルの目標の確認や見直しを行う。4年次では、就職先への内定が決まった学生から順次カウンセリングをおこない、就職準備、資格取得など残りの大学生活の過ごし方の目標を設定する。

本取組では、在学中に4回の自己管理サイクルが組込まれている。このサイクルの中で本学の諸活動に参加しながら、自己変革を遂げる仕組みとなっている。

なおカウンセリングの報告書や各プログラムの結果は、カウンセラー、キャリアセンタースタッフ、ゼミ担当者の間で「学生カルテ」(資料10)として保管される。このカルテは個人情報保護の観点から厳重な管理のもとに必要なに応じて情報の共有化がされる。

キャリア意識の形成を促進するしくみ

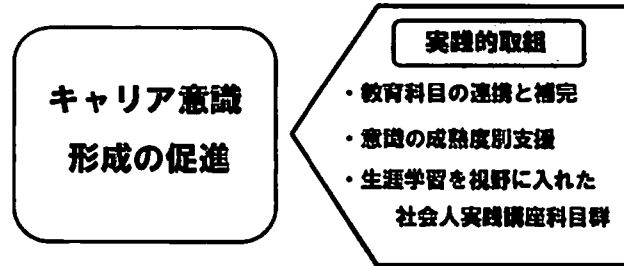
本取組の目的を達成する為に、カリキュラムに編成されている正課教育だけでは十分とは言えない。個々の学生の状況に応じて的確に、しかも実効性のある取組が必要である。具体的には、入学前教育を含む初年次教育、基礎科目や専門科目など教育科目の展開と編成、キャリア意識の醸成と育成、就職活動支援、キャリア意識の定着など実践的な展開が不可欠である。

これらの取組は、小規模・地域大学ならではの「強み」を発揮することが有効である。つまり、チームワークのとれた機動力と柔軟性のある教職員組織によってはじめて効果的な取組となる。

(i) 教育科目内容のフレキシビリティ

本学のキャリア教育は、正課科目と正課外科目が連携して取組むが、内容の変更や修正を必要とすることが多い。このような場合、正課外の科目が補完的な役割をする。正課外科目も時間割にコマとして確保されており、受講希望の学生数や就職環境の変化に応じて支援内容を修正、変更でき

る体制がとられている（「様式4：取組の全体スケジュール」参照、資料7：「ゼミナールI」のスケジュール）。



地域大学の強みを活かした機動力と柔軟性を発揮

図3：キャリア意識形成の促進

(ii) 学生のキャリア意識の成熟度ややり直しのきくキャリア支援

学生のキャリア意識の形成の成熟度は、多様である。特に就職準備の開始時期については個人差が大きいため、3年次から開始する「就職支援ガイダンス」では、「意欲的に参加する学生」と「のんびりと構えている学生」などを統一的に指導することは効果的ではない。また、就職準備は学生本人が主体的に関わらないかぎり実質的な効果がでないことは学生本人も十分承知している。そこで、キャリア意識の成熟度別にセミナーを設置した。また、途中脱落の学生も次のセミナーでやり直しがきくように配慮されている。「やる気」になったタイミングを逃さない就職準備支援の体制が整備されている。

3年次に開講される就職支援プログラムは、全体学生を対象とするガイダンスと学生の成熟度別の「就職準備セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、就活スキルを強化する「オプション講座」から構成されている（資料8：キャリアセンターが実施する「就職準備セミナー」「オプション講座」）。

(a) 就職準備セミナーⅠ：キャリア意識の成熟の早い、早く立ち上がれるグループを対象。3年次のはじめから就職意欲をもって活動する先行グループのセミナー。

(b) 就職準備セミナーⅡ：先行グループの状況を見ながら、焦りを感じながら立ち上がるグループを対象。3年次後期からスタートするセミナー。

(c) 就職準備セミナーⅢ：短期的に集中して就職スキルアップを希望する、のんびりタイプが集まったグループを対象。3年次の年度末頃からスタートするセミナー。このグループ以後は、セミナーⅢを繰り返し就職準備の支援をする。

(iii) 卒業後までも視野に入れた「社会人実践講座」科目群を設置

キャリア意識の定着や社会人基礎力の充実に「社会人実践講座」を平成19年度より正課科目として設置した。現在「ワークインフォメーション」「社会人になるために」「観光産業カレッジ」が開講されており、今後順次、「ライフデザインと自己啓発」「地域社会事情」「社会人コミュニケーション」等を設置して充実させる。

②取組の実現に向けた実施体制（組織的な取組体制、方法、学外との連携）について

(i) キャリアセンター：本取組を推進する全学的な組織で、キャリア教育の充実を目的に、これまでの就職課を発展させて平成18年度設置した。本学部対応では、総合経営学部就職委員会と呼称し、3名が就職委員として参加している。全学部（キャリアセンターと呼称）では、教員11名、職員8名の組織である。就職委員会は教授会と連携を取りながらキャリア教育プログラムを職員と一体となって実施している。

(ii) 学外との連携（産学連携）：本取組を実施するにあたり地域の企業や行政、団体との連携は不可欠である。学内合同企業説明会（年3回開催、各約50社参加）、講演会（約20名）、面接体

験講座（約20名）、OB・OGの報告会（6名）、インターンシップ（10社で実施）などが行われており地域社会との緊密な信頼関係が構築されている。また、キャリア・カウンセリングは資格とスキルを備えた50名の専門家と契約をしている。

（iii）高等学校との連携（高大連携）：入学前教育は高校生と本学学生が参加するプログラムであるため、高等学校との連携のもとに実施されている。入学前教育の実施当日は高校側からの見学者も数多く、高大連携キャリア教育として定着しつつある。

（3）取組の評価体制 [申請書作成・記入要領 P.5参照]

①申請する取組（取組の達成度）に対する評価体制、方法、指標の設定について

正課教育科目の評価体制は、学内のFD委員会が中心になって全ての科目に対して各期の講義終了時期に学生の授業評価アンケート、教員の授業自己評価アンケート、学生の評価との比較の所見コメントをまとめ、報告書を作成して公表する。

正課外の教育科目である入学前教育・キャリア支援ガイダンス等については講座終了時にキャリアセンターがアンケートをおこなう（資料9：入学前教育の学生アンケート）。キャリアセンターでは自己点検評価として、実績、問題点、課題について整理し、全学的な活動報告書（アニュアルレポート）とキャリア教育中心の活動報告書（キャリア・エデュケーション）を作成して公表する。また、学内企業説明会等ではそのつど企業担当者に実施状況、要望等のアンケートをとり、活動報告書に記載している。

取組の指標である就職希望率、内定率については年度初めに就職委員会で計画され、年間スケジュールとともに教授会で報告、承認される。月次の就職委員会議では、本取組の進捗と学生の参加状況等についての報告があり、対応が検討され、教授会に報告される。

②当該評価を取組に反映させる方法について

FD委員会が中心になって行われるFD活動については、次年度のシラバスに改善項目等がフィードバックされる。また毎月の就職委員会議の中で議論される改善等のフィードバックは、キャリアセンターによって実施され、活動報告書で公表される。

③取組期間終了時における評価体制等について

毎年発行される全学活動報告書とキャリアセンター活動報告書の作成と同様の手順で評価される。なお本学部の教育活動の柱である本取組は、取組期間終了時においては、学部の全教員参加の総合評価をおこなう。

（参考） [申請書作成・記入要領 P.5参照]

①取組に関連する今日までの教育実績

設定している各指標の推移は以下の通り

指 標	17年度	18年度	19年度
就職希望率（就職希望者／全学生数）	88.9%	89.8%	93.3%
内定率（内定者／就職希望者）	94.0%	95.0%	93.3%

②実施体制等の今日までの経緯

本学開学以来7年目に入るが、キャリアセンターでは地域社会の期待を受けてキャリア教育に努力してきた。その成果として地域社会の多方面で本学部の卒業生は受け入れられている。開学時よりの今日までのキャリアセンターの組織等の経緯は以下の通りである。

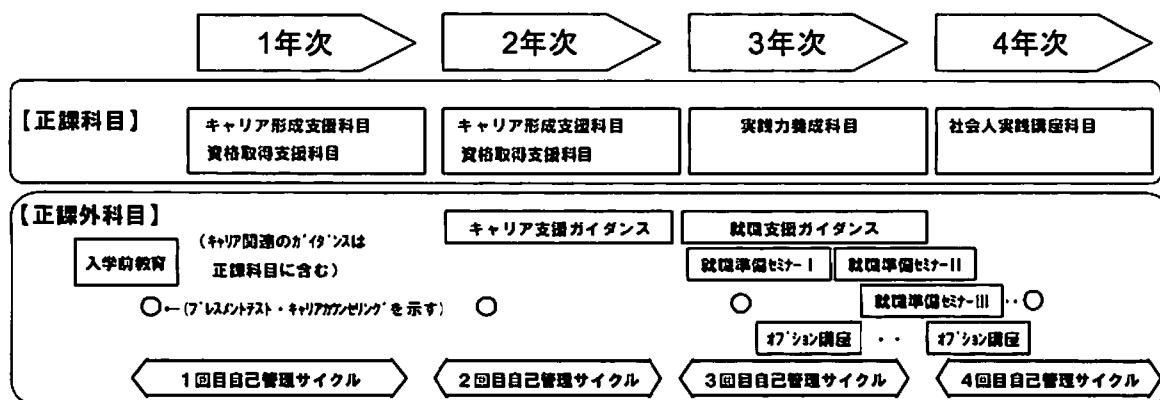
平成14年4月（開学） ～平成17年度	就職課としてスタート 就職委員4名、就職課職員4名（H17から7名に増員）
平成18年年度～平成20年度	（18.4月）キャリアセンターに機能拡充し設置。 （H20）キャリアセンター運営委員6名（そのうち本学部就職委員3名）、キャリアセンター職員8名

(様式4)

3 取組の実施計画等について【2ページ以内】 [申請書作成・記入要領 P.5参照]

取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

入学前教育から4年次教育までの全体スケジュール



キャリア関連の正課科目

キャリア形成支援科目	キャリア入門、マナー概論、ホスピタリティ入門・ビジネスコミュニケーション・プレゼンテーション技法、キャリアデザイン論、ゼミナールⅠほか
資格取得支援科目	産業カウンセリング概論、販売士、FP、旅行業務実務、社会福祉概論、ビジネススキル、公務員試験特講ほか
実践力養成科目	インターンシップ、社会活動、社会福祉Ⅰ実習、産業カウンセラー実習、博物館実習ほか、
社会人実践講座科目	社会人になるために、ワークインフォメーション、観光産業カレッジ、ライフデザインと自己啓発、地域社会事情ほか

「入学前教育」のスケジュール (平成20年度実施計画)

1	1/27	日	10:00	集合セミナー(導入講義・先輩達のパネルディスカッション・グループワーク)
2	2・3月中			キャリア・カウンセリング
3	3/22	土	10:00	プレオリエンテーション

「キャリア支援ガイダンス」スケジュール (2年次、平成20年度実施計画)

1	5/22	木	2限	自己プロgresレポート結果解説と学生生活の目標・計画立てる
2	6月中			キャリア・カウンセリング
2	11/5	水	3限	キャリアとは何か、社会で求められる力と学生生活
3	11/12	水	3限	自己理解①(自己理解のとは何か)
4	11/19	水	3限	自己理解②(経験の振り返り、整理)
5	11/26	水	3限	自己理解③(将来ありたい姿、そのために必要なこと)
6	12/3	水	3限	大学生活プランニング、先輩の学生生活体験談
7	12/10	水	3限	コミュニケーションスキル①(他者との関わりの重要性)
8	12/17	水	3限	コミュニケーションスキル②(相互理解のために必要なこと)
9	1/7	水	3限	春季インターンシップ募集説明会

「就職支援全体ガイダンス」スケジュール（3年次、平成20年度分実施計画）

1	4/9	水	4限	就職支援の考え方、前期セミナー募集説明、
2	5/7	水	4限	企業担当者講演会(学生生活と社会とのつながり)
3	6/4	水	4限	筆記試験模試
4	7/2	水	4限	OBOG講演会、夏季インターンシップ募集、後期予告
5	9/24	水	4限	適性診断(キャリアアプローチ実施)
6	10月中			キャリア・カウンセリング
7	11/5	水	4限	就活の流れと進め方、先輩の就活報告、適性診断結果解説
8	11/12	水	4限	自己分析①(経験や好きなことの整理)
9	11/19	水	4限	自己分析②(仕事に関する価値観、業種・職種)
10	11/26	水	4限	業界研究・企業研究(企業講演、企業研究解説)
11	12/3	水	4限	合同企業説明会直前対策(マナー、訪問カード記入 他)
12	12/5	金	午後	合同企業説明会
13	12/10	水	4限	就職講演会(マイコミ)
14	12/17	水	4限	SPI模試
15	1/7	水	4限	履歴書・自己紹介書作成指導(自己PR、志望動機)
16	1/14	水	4限	ビジネスマナー、就活ルール

各年次の実施計画（開学からの実績と平成22年度までの計画）

開学からの実施 (平成14年度～平成19年度)	「インターンシップ」(H14)「就職支援ガイダンス」「キャリア・カウンセリング」(H15)「就職支援バスツアー」「学内企業説明会」(H16)「入学前教育」(H17)「ネットによる就職試験対策」(H18)「キャリア支援ガイダンス」「社会人実践講座」(H19)
平成20年度	「入学前教育」の充実 「就職準備セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「オプション講座」スタート 「4年生対象キャリア・カウンセリング」スタート 「卒業生就業状況調査」スタート
平成21年度	「社会人実践講座」の充実 「学内就職情報ネットワーク」スタート 「学生によるジョブサポーター」スタート
平成22年度	「学内就職情報ネットワーク」充実 「学生によるジョブサポーター」充実 「卒業生対象の資格チャレンジ講座」スタート

2 取組に参加する教職員と学生の数

(i) 正課科目の担当教員：20名

キャリアセンター：就職委員会所属教員3名・キャリアセンター職員8名

(ii) 対象となる学生数：各学年約200名

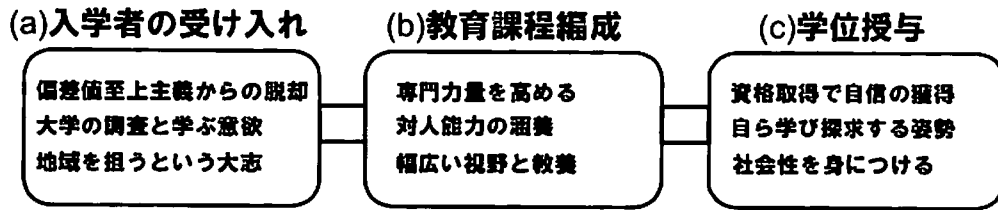
3 取組終了後の大学等における取組の展開の予定（予算措置を含む）

本取組は、本学の教育目標を達成する為には不可欠のものである。したがって取組に終了はありません、取組終了後は経常予算で運営される。また、取組については今後もFD活動を通じて改善してより充実したキャリア教育が展開するよう一層の努力をする所存である。

(様式5)

4 「データ、資料等」【4ページ以内】[申請書作成・記入要領 P.5参照]

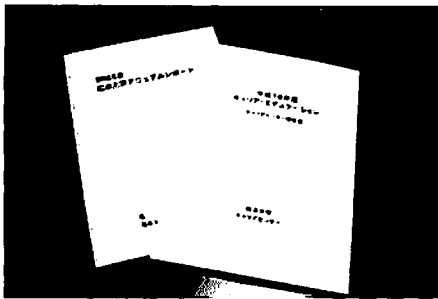
資料1 : 松本大学の3つの方針



資料2 : 公表資料

①活動報告書

(アニュアルレポートとキャリアエデュケーション)

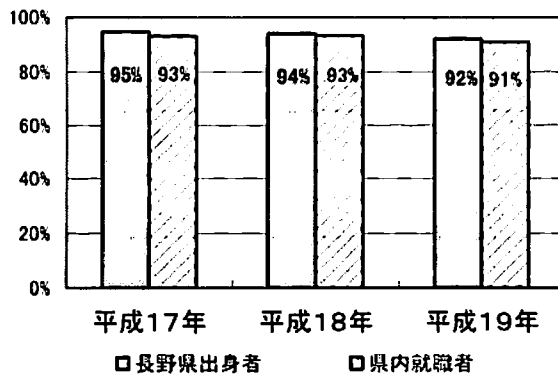


②キャリアセンター発行の情報誌

(保護者向けと学生向け・年6回発行)



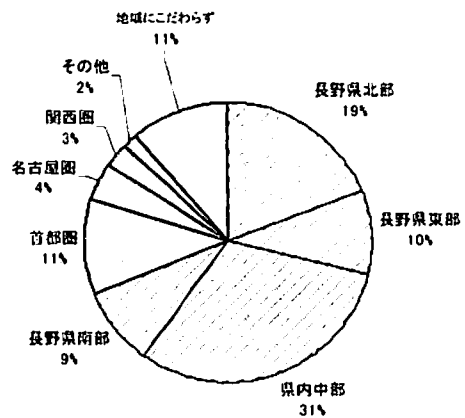
資料3 : 入学者の出身地と就職先



資料4 : 勤務地希望調査

(平成19年9月 現3年生について調査)

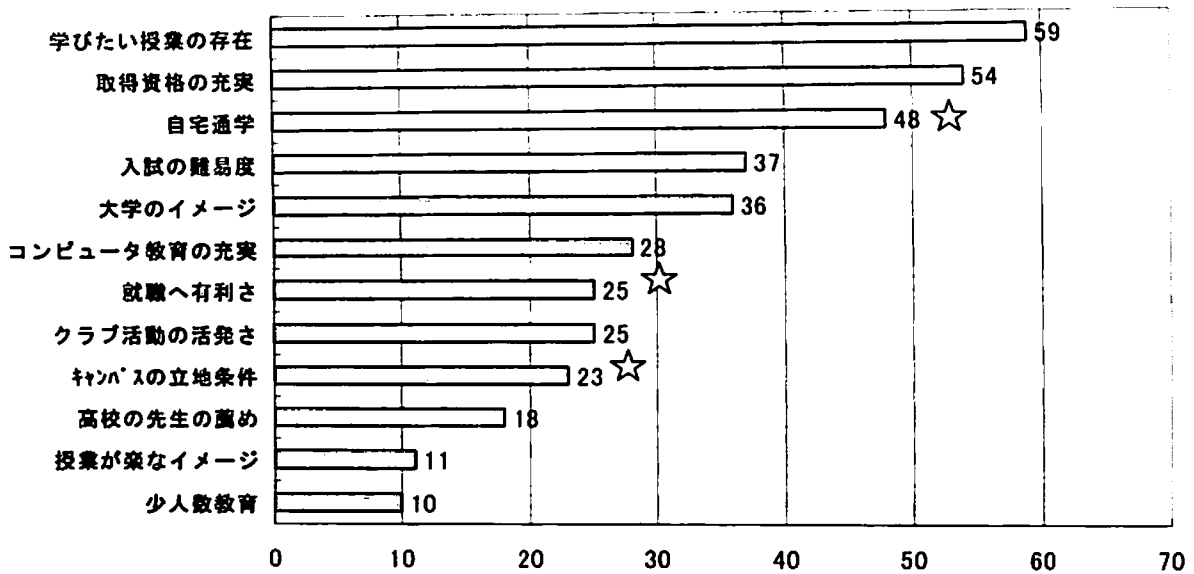
(キャリアセンター調べ: サンプル=125名、
複数回答可)



資料5：本学への入学理由

2007.4実施 キャリアセンター調べ

(複数回答可・回答割合%)

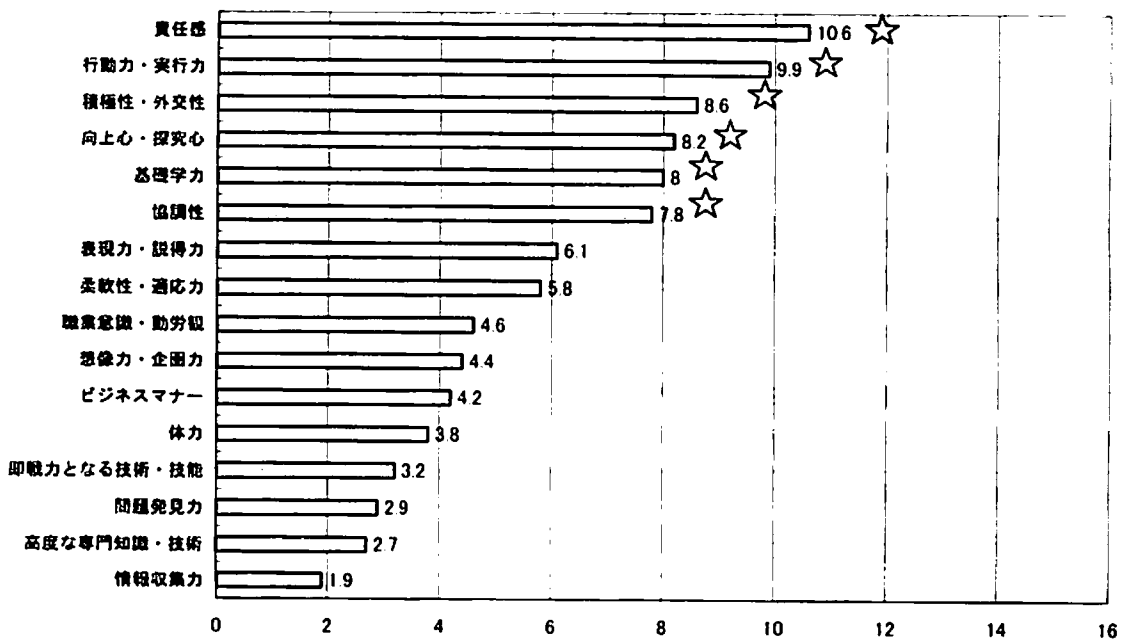


資料6：企業アンケート

「採用の再重視する資質・能力」についてキャリアセンター調べ

(2007.3実施 県内507社アンケート結果)

(複数回答可・回答割合%)



資料7：「ゼミナールⅠ」のスケジュール（平成20年度前期、「シラバス」から抜粋）

1	4/8	火	2限	ゼミ教員紹介・履修相談
2	4/15	火	2限	自己紹介・学内見学等
3	4/22	火	2限	キャリアガイダンス(自己発見レポート)①
4	5/13	火	2限	環境講演会・体育大会説明
5	5/20	火	2限	ゼミ役員選出・体育大会名簿作成
6	5/27	火	2限	体育大会(やまびこドーム)
7	6/3	火	2限	交通安全講習会
8	6/10	火	2限	キャリアガイダンス(自己発見レポート解説)②
9	6/17	火	2限	松本大学バリアフリー週間の特別講演会
10-14	6/24	火	2限	ゼミ毎にテーマを決めて実施(人前で話し、発表することを含む)
15	7/24	木	2限	大学祭参加説明会

資料8：キャリアセンターが実施する「就職支援セミナーⅠ・Ⅱ」「オプション講座」
「就職準備セミナーⅠ」のスケジュール（平成20年度実施計画・2クラスで実施）

1	5/14	水	4限	就職活動の流れと、そこに向けて必要なこと。自己分析①
2	5/21	水	4限	自己分析②
3	5/28	水	4限	社会で求められる人材像。自己分析結果の振り返りと自己PR作成の考え方
4	6/11	水	4限	自己PR発表会
5	6/18	水	4限	仕事観と将来像の整理
6	6/25	水	4限	やりたい仕事発表会
7	7/9	水	4限	自己PR作成指導
8	7/16	水	4限	履歴書作成指導、夏のセミナー合宿案内

「就職準備セミナーⅡ」のスケジュール（平成20年度実施計画）

1	10/1	水	4限	業界研究・仕事研究の必要性、企業担当者ミニ講義、進め方説明
2	10/8	水	4限	グループワーク①
3	10/15	水	4限	発表①と講評、今後への改善研究ポイント
4	10/22	水	4限	グループワーク②
5	10/29	水	4限	発表②と講評、今後への改善研究ポイント

「オプション講座（就職支援バスツアー合宿）」のスケジュール
（平成20年度夏休み中に2回実施計画）

1日目	企業訪問・全体セミナー・面接体験講座
2日目	内定者体験報告会・グループワークによる振り返り

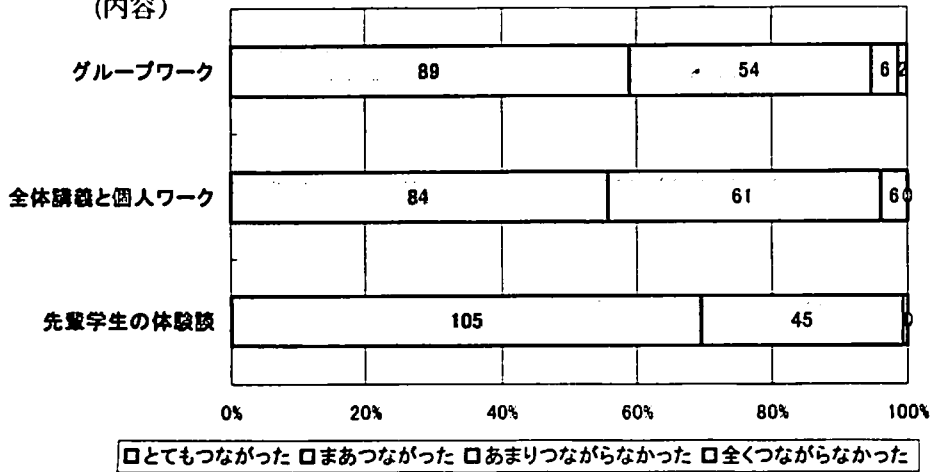
「オプション講座（就職試験対策）」のスケジュール
（平成20年度1月～4月まで2回実施）

1	自己分析ワークショップ(全2回)
2	論作文対策(全1回+添削)
3	エントリーシート対策(全3回+添削)
4	冬休みSPI集中(全3日)
5	グループディスカッション対策(全1回)
6	面接対策(全1回)
7	春休み直前集中(全3日)

資料9 : 入学前教育の学生へのアンケート

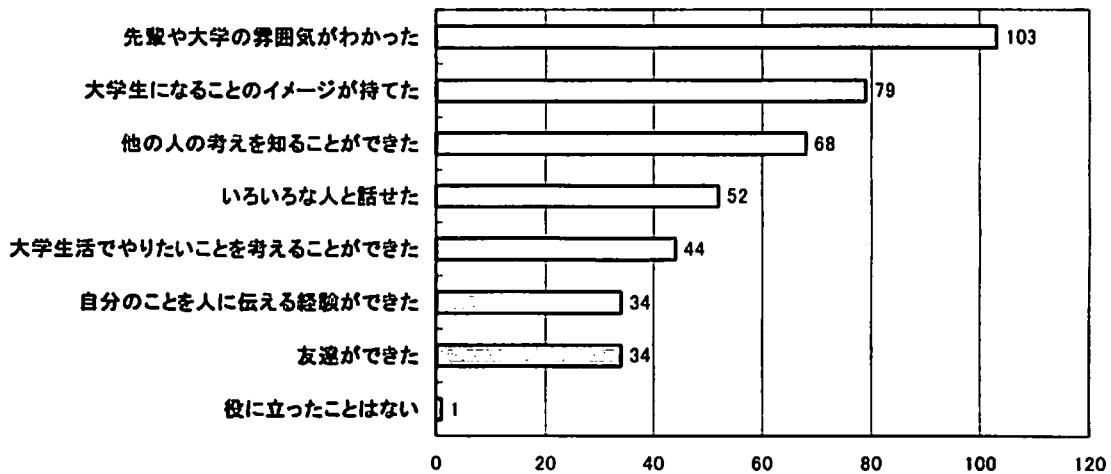
Q1 : 本プログラムは、あなたの今後の大学生活への期待ややる気につながったでしょうか？

(内容)



Q2 : 本プログラム役に立ったことはどのようなことですか？ (複数回答可)

(回答者151人)



資料10 : 学生カルテ (一部サンプル)

【2008 入学的】 カウンセリングシート カウンセラー氏名: ○○○○

カウンセリング実施日: H 20年 2月 23日

学年	総合学部 (総合 観光)	登録番号	△△△△
学科	人間関係 (栄養 スポーツ)	氏名	○○○○
	姓ス (自 姓変更履歴)		

※ 学生の所属と学年(月毎的な変更ベース)、カウンセラーが伝えた内容を記入。
 学生より「専攻科」の質問あり(該当する場合は、チェック)
 【ヒアリング内容】
 担任、高校の卒業式実行役員として、卒業式の準備で忙しいこと。
 ※高校と大学の違い (中略) 質問するようお伝え、
 ...の質問 無くてはいいということでは
 ...で質問内容は勉強の意味でもとっておくといふかもアドバイ
 ...やどったりということになれば、専攻科の知識も必要になってくるお話し。
 ...分野の方に向って行くので、コミュニケーション能力は重要になってくる、でも、一番重
 ...は、一冊にやる目的との進捗確認ですとアドバイス。
 【カウンセラーの感想】
 やりたいことが今のうちからはっきりしているという事は、すばらしいことだと感じました。校内で自信を持
 らたい事に、地域とのコミュニケーションもあるこちらの大学を選択したりなど、自分のこれからの方向性
 についてしっかり選んでいくように感じます。
 【大学スタッフへの申し送り】 特になし
 ※ 学生相談窓口への異動 = あり なし